

2021年
7月12日
月曜日

田中 敦 教授（金融論）

中央銀行は潰れない？

中央銀行とは、円やドルなどのお金を発行している公的な組織で、日本では円を発行している日本銀行です。今日は、そのような中央銀行が潰れないのかというお話をします。

中央銀行は、政府と同じように潰れるはずがないと思われがちです。でも、政府だって財政破綻することがあります。記憶に新しいのは、2009年のギリシャ危機でしょう。政府の赤字が膨れ上がって支払いえなくなり、周りの国が救済しました。

では、中央銀行はどうなのでしょう。実は、支払いができなくなるなんてありません。中央銀行は自らお金を発行することができる、つまり無からお金を作り出すことができるので、いつでもお金を作り出して支払いに充てることができるからです。

しかし、お金を使い放題というわけ

にはいきません。お金を発行しすぎると、経済にお金が溢れて景気が過熱し、物価が上昇してしまいます。逆にお金の発行を抑えすぎると、経済がお金が不足し、景気が悪化し物価が下落してしまいます。そこで中央銀行は、日頃、物価安定のためにお金の量を調節しているのです。もし中央銀行が大きな損失を出し続けると、物価安定に関係なく、お金を発行し続けることになりません。これは、物価はどんどん上昇してしまいます。物価が上昇すると、同じ金額で買えるモノが少なくなっていくので、お金の価値が下がってしまいます。価値が下がっていくお金なんて誰も持ちたくなく、中央銀行がお金を発行している意味がなくなってしまうのです。政府とは異なるのですが、これが中央銀行が潰れるということなのです。

中央銀行が潰れた例は、実はいろいろあります。例えば、エクアドル。2000年に中央銀行は物価上昇を止めることができなくなり、自国の金は廃止され、米ドルが使われるようになりました。他にも、ベネズエラ、ジャマイカ、コスタリカなど、いくつもの破綻例があります。

では、日本銀行は大丈夫でしょうか。これまではむしろ大きな赤字でしたが、近年、前例のない金融政策で大きな損失を被る可能性が指摘されるようになりました。そこで、私は中央銀行の損失と破綻について10年ほど前に研究を始めましたが、当初は相手にされませんでした。損失が膨れ上がったら問題ですが、一方で日本銀行が潰れるわけがないとみなさん言われるのです。

しかし、海外の文献を探すと、研究が進んでいることが分かってきま

した。当初は途上国についてでしたが、先進国についても私と同時期に研究する人が出てきました。背景には、2008年のリーマンショック後、海外の中央銀行も前例のない金融政策を実施して、大きな損失の可能性が出てきたことがあります。

損失が膨れ上がっても日本銀行が潰れないことを検討するには、どうなったら潰れるかの研究が必要です。海外文献も参考に研究を進め、現時点では日本銀行は潰れる状況はないと言えるようになりました。

今日の聖句には、「探しなさい。そうすれば、見つかる」（「マタイによる福音書」7章7節より）とありました。中央銀行破綻の研究を海外文献で見つけたとき、まさにそのような思いでした。